

山陰地方における弥生時代の墓制～弥生時代後期を中心～

松井 潔（財団法人鳥取県教育文化財団調査室）

山陰地方の墳丘墓の特性（表）

山陰地方の墳丘墓の特性は、四隅突出型墳丘墓は通時的には全体の半数弱だが、出雲地域で王墓と呼ぶに相応しい大型の四隅突出型墳丘墓が築造され始める5期以降に限ると約6割を占める。即ち、「山陰地方の墳墓＝四隅突出型墳丘墓」という概念は5期以降にこそ相応しいといえよう。また、大型の墳丘墓は潟湖を見下ろす立地が多いのも大きな特徴である。

因幡 E 地域では、C 地域では認められない重層的な首長墓の系列を辿ることができることが大きな特徴である。また、B 地域と D 地域の墳丘墓群で築造方法、埋葬施設上への土器破碎供献等、北近畿の墓制との親縁性が認められることも特徴である。

伯耆東部 F 地域と H 地域の墳丘墓は、①両地域とも4期までは原則として四隅突出型墳丘墓だが、5期に平面方形の墳丘墓に転換、②H 地域では墳丘墓の主体部に副葬品を伴わないが、F 地域では多量の玉類や鉄製品が出土、という差異が認められるのが特徴である。F 地域がこうした多彩、多量な副葬品をもつ理由の手がかりが棺形式にある。少なくとも三主体で用いられた舟底形木棺は丹後の首長墓で採用される棺形式なので、北近畿の有力首長と親縁な関係を持っていたことが窺われる。

伯耆西部 伯耆西部では L 地域と M 地域で多くの墳丘墓が築かれる。特性は、①M 地域の洞ノ原墳丘墓群では中期末にあたる1期に突出部の未発達な四隅突出型墳丘墓が出現、備後系の供献土器が出土するので、山間地から沿岸部への四隅突出型墳丘墓の拡散に際して日野川が経路となったとみてよい点、②L 地域と M 地域の墳丘墓には高地性の環壕集落が隣接する立地において共通性があり、この地域では集団間の緊張関係を契機に首長への一層の権力集中が進行していたことを窺わせる点、③四隅突出型墳丘墓が墳丘墓の形式としては継続せず、概ね3期ないし4期を境に（長）方形プランの墳丘墓に変化する点があげられる。

出雲東部 能義平野では、飯梨川下流左岸の独立丘陵や尾根上に、5期以降の大型の四隅突出型墳丘墓が累代的に築造される一方、伯太川流域では、独立山塊の城山や丘陵上を中心に2期以降の平面形態が方形、不定形で小規模な墳丘墓等が築造される。前者の地域での大型の四隅突出型墳丘墓の築造開始を能義平野の地域集団における階層社会の顕在化の結果と考えると、従来の墓域である後者の地域から四隅突出型墳丘墓の立地を分離することで、権力の隔絶化を図ったのではないかと考える。

出雲西部 出雲西部でも5期以降、簸川平野を眼下に望む西谷丘陵上に大型の四隅突出型墳丘墓が累代的に築造される。うち西谷3号墓（5期）は、埋葬施設の構造、副葬品及び供献土器の質、量で他の墳丘墓を圧倒する。供献土器には北近畿系の土器が一定量含まれる上、第4主体の供献土器の中や墳丘の周辺からは、特殊器台、特殊壺の破片も相当量見つかっている。

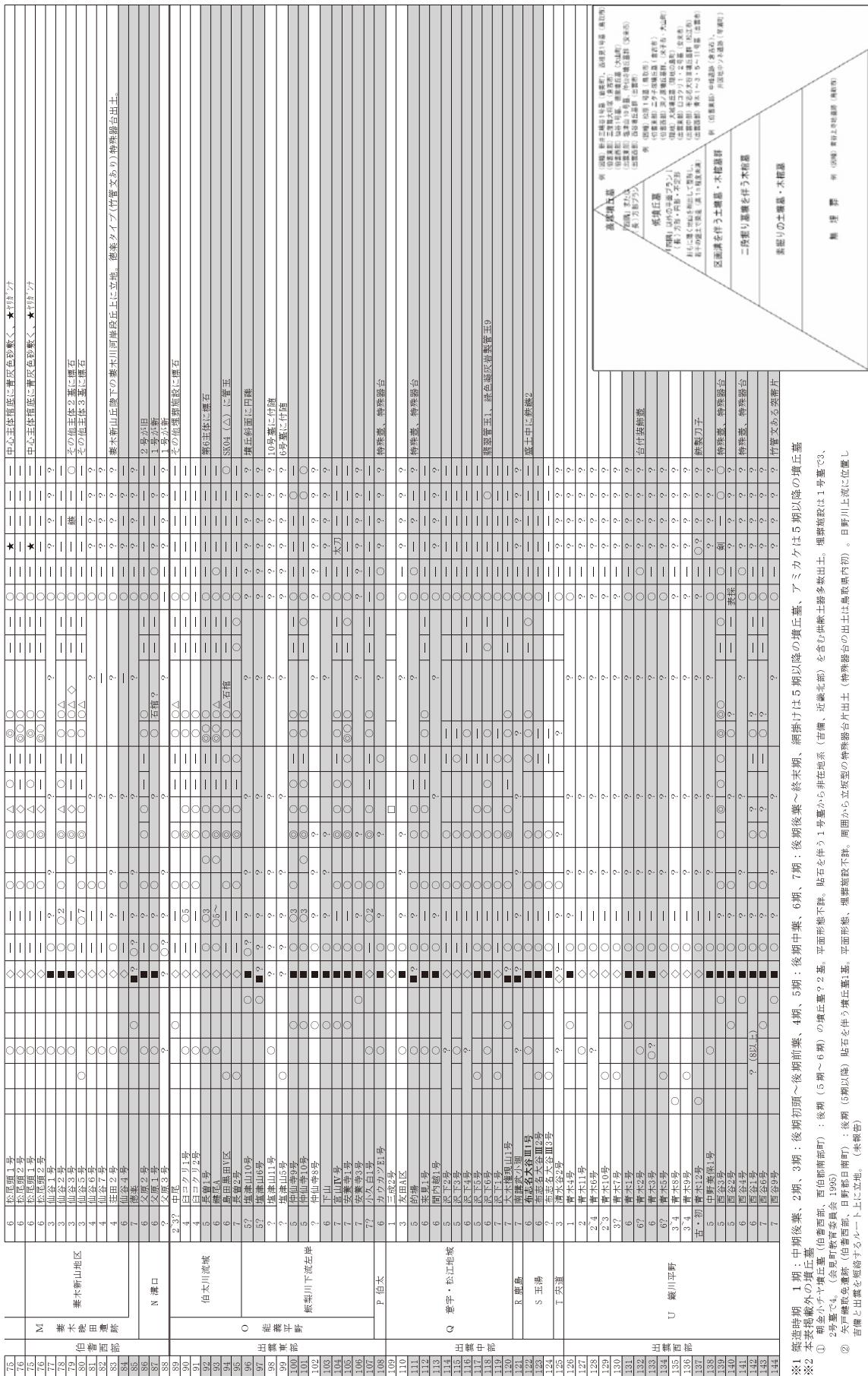
一方、丘陵下の簸川平野では、沿岸部最古の四隅突出型墳丘墓、青木4号墓を起点に青木遺跡、中野美保遺跡で小規模な四隅突出型墳丘墓が後期後葉まで継続的に築造される。山陰地域の中では唯一この地域だけが、四隅突出型墳丘墓を一貫して築造し続ける中で後期中葉以降階層性が顕在化し、王墓たる属性を備えた四隅突出型墳丘墓が丘陵上に隔絶化された。

なお、研究集会で報告した弥生後期墓制の階層性については、紙幅の都合で図を掲載するにとどめ本文は割愛する。

第1表 鳥取（因幡・伯耆地域）、島根（出雲地域）の弥生墳丘墓（中期後葉以降）

地 埼	築造時期 (約1)	名 称	面 形 (長毛邊、四隅突出型/突出部 外形 (長毛邊、不正形 幅員 (最短幅、最長幅)m)	埋設施設 (基)	埋		其 残	其 残	主体部副用品
					面 形 (基)	面 形 (基)			
1	1	新井三幡谷1号	~3 × ~5	25	平面形	平面形	その他の主体	石	主体部石器
2	2	新井三幡谷2号	~3 × ~5	25	平面形	平面形	石	石	主体部石器
3	3	新生増上墓(板)	2	○	△	△	石	石	主體部石器
4	4	木生多喜(板)	2	○	○	○	石	石	主體部石器
5	5	木生多喜(板)	2	○	○	○	石	石	主體部石器
6	6	木生多喜(板)	2	○	○	○	石	石	主體部石器
7	7	蓮山原谷2号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
8	8	蓮山原谷1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
9	9	蓮山原谷平1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
10	10	井毛1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
11	11	下坂1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
12	12	門上谷1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
13	13	門上谷2号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
14	14	糸合1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
15	15	美和32号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
16	16	蓮尾1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
17	17	鶴見1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
18	18	鶴見2号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
19	19	鶴見3号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
20	20	鶴見4号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
21	21	高瀬宮1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
22	22	高瀬宮2号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
23	23	松原1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
24	24	有輪轂馬車	○	○	△	△	石	石	主體部石器
25	25	有輪轂馬車	○	○	△	△	石	石	主體部石器
26	26	有輪轂馬車	○	○	△	△	石	石	主體部石器
27	27	西湖池跡東半	○	○	△	△	石	石	主體部石器
28	28	西湖池跡西半	○	○	△	△	石	石	主體部石器
29	29	西指原1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
30	30	西指原2号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
31	31	宮内櫛山2号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
32	32	宮内櫛山3号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
33	33	宮内櫛山4号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
34	34	東源湖畔	○	○	△	△	石	石	主體部石器
35	35	天神川中流右岸	○	○	△	△	石	石	主體部石器
36	36	天神川中流右岸	○	○	△	△	石	石	主體部石器
37	37	阿斯大寺1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
38	38	阿斯大寺2号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
39	39	阿斯大寺3号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
40	40	阿斯大寺4号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
41	41	日吉附川中流左岸	○	○	△	△	石	石	主體部石器
42	42	大金後口谷1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
43	43	大金後口谷2号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
44	44	三重殿大深根	○	○	△	△	石	石	主體部石器
45	45	二ヶ原1号	○	○	△	△	石	石	主體部石器
46	46	施田土墓	○	○	△	△	石	石	主體部石器
47	47	出上平野	○	○	△	△	石	石	主體部石器
48	48	湯汲1号	SX3	○	△	△	石	石	主體部石器
49	49	湯汲2号	SX2	○	△	△	石	石	主體部石器
50	50	日下平野	SX1	○	△	△	石	石	主體部石器
51	51	K 汗入	T?	○	△	△	石	石	主體部石器
52	52	L 日下平野	2	○	△	△	石	石	主體部石器
53	53	1	日下浅山1号	○	○	○	石	石	主體部石器
54	54	1	河ノ原15号	○	○	○	石	石	主體部石器
55	55	1	河ノ原16号	○	○	○	石	石	主體部石器
56	56	2	河ノ原1号	○	○	○	石	石	主體部石器
57	57	2	河ノ原2号	○	○	○	石	石	主體部石器
58	58	2	河ノ原3号	○	○	○	石	石	主體部石器
59	59	2	河ノ原4号	○	○	○	石	石	主體部石器
60	60	2	河ノ原5号	○	○	○	石	石	主體部石器
61	61	2	河ノ原6号	○	○	○	石	石	主體部石器
62	62	2	河ノ原7号	○	○	○	石	石	主體部石器
63	63	2	河ノ原8号	○	○	○	石	石	主體部石器
64	64	2	河ノ原9号	○	○	○	石	石	主體部石器
65	65	2	河ノ原10号	○	○	○	石	石	主體部石器
66	66	2	河ノ原11号	○	○	○	石	石	主體部石器
67	67	2	河ノ原12号	○	○	○	石	石	主體部石器
68	68	2	河ノ原13号	○	○	○	石	石	主體部石器
69	69	2	河ノ原14号	○	○	○	石	石	主體部石器
70	70	2	河ノ原15号	○	○	○	石	石	主體部石器
71	71	2	河ノ原16号	○	○	○	石	石	主體部石器
72	72	2	河ノ原17号	○	○	○	石	石	主體部石器
73	73	2	河ノ原18号	○	○	○	石	石	主體部石器
74	74	2	河ノ原19号	○	○	○	石	石	主體部石器
M	75	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
N	76	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
O	77	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
P	78	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
Q	79	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
R	80	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
S	81	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
T	82	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
U	83	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
V	84	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
W	85	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
X	86	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
Y	87	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
Z	88	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
AA	89	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
BB	90	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
CC	91	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
DD	92	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
EE	93	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
FF	94	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
GG	95	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
HH	96	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
II	97	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
JJ	98	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
KK	99	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
LL	100	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
MM	101	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
NN	102	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
OO	103	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
PP	104	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
QQ	105	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
RR	106	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
SS	107	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
TT	108	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
UU	109	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
VV	110	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
WW	111	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
XX	112	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
YY	113	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
ZZ	114	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
AA	115	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
BB	116	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
CC	117	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
DD	118	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
EE	119	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
FF	120	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
GG	121	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
HH	122	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
II	123	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
JJ	124	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
KK	125	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
LL	126	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
MM	127	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
NN	128	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
OO	129	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
PP	130	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
QQ	131	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
RR	132	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
SS	133	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
TT	134	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
UU	135	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
VV	136	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
WW	137	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
XX	138	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
YY	139	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
ZZ	140	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
AA	141	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
BB	142	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
CC	143	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
DD	144	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
EE	145	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
FF	146	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
GG	147	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
HH	148	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
II	149	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
JJ	150	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
KK	151	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
LL	152	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
MM	153	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
OO	154	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
PP	155	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
QQ	156	妻木山地区	妻木山	○	△	△	石	石	主體部石器
RR									

第1図 山陰地域の弥生後期墓制の階層図



※1 墓造時期 1. 柄、中期後葉、2. 柄、中期後葉～後期前葉、4. 柄、5. 柄：後期後葉～終末葉、6. 柄、7. 柄：後期後葉～終末葉、8. 柄：後期後葉～終末葉、9. 柄：後期後葉～終末葉、10. 柄：後期後葉～終末葉、11. 柄：後期後葉～終末葉、12. 柄：後期後葉～終末葉、13. 柄：後期後葉～終末葉、14. 柄：後期後葉～終末葉、15. 柄：後期後葉～終末葉、16. 柄：後期後葉～終末葉、17. 柄：後期後葉～終末葉、18. 柄：後期後葉～終末葉、19. 柄：後期後葉～終末葉、20. 柄：後期後葉～終末葉、21. 柄：後期後葉～終末葉、22. 柄：後期後葉～終末葉、23. 柄：後期後葉～終末葉、24. 柄：後期後葉～終末葉、25. 柄：後期後葉～終末葉、26. 柄：後期後葉～終末葉、27. 柄：後期後葉～終末葉、28. 柄：後期後葉～終末葉、29. 柄：後期後葉～終末葉、30. 柄：後期後葉～終末葉、31. 柄：後期後葉～終末葉、32. 柄：後期後葉～終末葉、33. 柄：後期後葉～終末葉、34. 柄：後期後葉～終末葉、35. 柄：後期後葉～終末葉、36. 柄：後期後葉～終末葉、37. 柄：後期後葉～終末葉、38. 柄：後期後葉～終末葉、39. 柄：後期後葉～終末葉、40. 柄：後期後葉～終末葉、41. 柄：後期後葉～終末葉、42. 柄：後期後葉～終末葉、43. 柄：後期後葉～終末葉、44. 柄：後期後葉～終末葉

※2 本表掲載外の埋立基。
① 銅鏡小字ヤササ基（伯耆西部、西伯郡部町）：後期（5柄～6柄）の埴正塗2基。平面形状不詳。駆石を伴う1号墓から非本地系吉備、近畿北部を含む供職器多数出土。埋葬施設は1号墓で、2号墓免れ新（会員町新委員会 1996）
② 号戸鍵取免新（伯耆西部、日野郡日南町）：後期（5柄以降）駆石を伴う埴正塗1基。平面形状不詳。埋葬施設不詳。周囲から伝型の特殊器台片出土（特殊器台の出土は鳥取県内初）。日野川上流に位置し古便と出雲を結ぶルート上に立地。（未報告）